



## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2018/04/24  
SDS整理番号 19225250

製品等のコード : 1922-5250、1922-5260、1922-5280

製品等の名称 : 酢酸ナトリウム

推奨用途 : 試薬 (緩衝溶液など)

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
医薬・染料原料、アセチル化触媒、保存料、  
酢酸ナトリウム三水和物の製造原料 (三水和物はエコカイロ・繰り返し使える  
カイロとして応用される。酢酸ナトリウム三水和物の融点は58℃で融解熱は  
264J/gです。密封した透明プラスチック袋に封入した酢酸ナトリウム三水和物  
を58℃以上に加熱すると溶けて溶液状に変化する。これを室温に戻しても  
過飽和のまま液状を保つ。この液体に何らかの刺激 (物理的な振動) を加えると  
結晶化が始まり白濁する。その際に約45℃くらいの温度を発生し、数十分程度  
持続する。この融解と結晶化は何回でも繰り返すことができる。  
なお、酢酸ナトリウム無水物は融点が324℃でこのエコカイロ原料には不適。) など



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外  
自然発火性固体 : 区分外  
自己発熱性化学品 : 区分外  
水反応可燃性化学品 : 区分外

## 健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分5 【国連GHS分類】  
皮膚腐食性・刺激性 : 区分3 【国連GHS分類】  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2A

注意喚起語: 警告

## 危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ (経口)  
軽度の皮膚刺激  
強い眼刺激

## 注意書き

## 【安全対策】

取扱い後は、よく手を洗うこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

## 【応急措置】

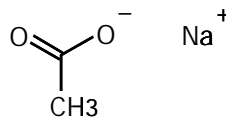
眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に  
外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断、手当てを受けること。  
眼の刺激が続く場合: 医師の診断、手当てを受けること。

## 【保管】

湿気、直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。



(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	酢酸ナトリウム (別名) ナトリウム = アセタート、酢酸ソーダ、 酢酸ナトリウム無水物、無水酢酸ナトリウム、 無水酢酸ソーダ (英名) Sodium acetate (EC名称)、 Acetic acid, sodium salt (1:1) (TSCA名称)
成分及び含有量	:	酢酸ナトリウム、 98.0%以上
化学式及び構造式	:	CH <sub>3</sub> COONa、 C <sub>2</sub> H <sub>3</sub> NaO <sub>2</sub> 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	82.03
官報公示整理番号	:	(2)-692
化審法	:	2-(4)-581
安衛法	:	127-09-3
CAS No.	:	204-823-8
EC No.	:	204-823-8
危険有害成分	:	酢酸ナトリウム

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水と石鹼で洗う。 皮膚刺激が生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいを 少量であれば、コップ数杯の水を飲んで体内で希釈する。 大量に飲み込んだ場合、大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで 吐かせる。 仮に意識がない時は何も飲ませないで、医師に連絡する。 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

### 5. 火災時の措置

消火剤	:	本製品は難燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	特になし
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じんを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	:	周辺の発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	:	
技術的対策	:	粉じんの発生、堆積を防止する。
局所排気・全体換気	:	粉じんが発生する場合、局所排気又は全体換気を行なう。

安全取扱い注意事項	: すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
保管条件	: 直射日光や高温多湿を避ける。 潮解性があるので、乾燥した場所に保管する。 容器を密閉して保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 強酸化剤
容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）:	
日本産衛学会（2017年版）	: 設定されていない。
ACGIH（2017年版）	: 設定されていない。
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合、換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 白い結晶又は結晶性粉末。 吸湿性(潮解性)あり。
臭い	: 微酢酸臭
pH	: 約7.5~9 (5w/v%、25 )
融点	: 分解 (324 )
沸点	: 分解
引火点	: >200
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度（空気 = 1）	: データなし
密度	: 1.53 g/cm <sup>3</sup>
溶解度	: 水に溶けやすい (33.5%、25 )。 エタノールにやや溶けやすい。
オクタノール/水分分配係数	: -3.72
自然発火温度	: 607
分解温度	: 324
粘度	: データなし

### GHS分類

可燃性固体	: 本品は難燃性であることから、区分外とした。
自然発火性固体	: 本品は難燃性であることから、区分外とした。
自己発熱性化学品	: 本品は難燃性であることから、区分外とした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水に溶けやすく（溶解度33.5%、25）、水に対して安定である（水との混触で可燃性ガスの発生がない）と考えられるので、区分外とした。

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常取扱条件において安定である。 潮解性(吸湿性)がある。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、熱、湿気
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 3,530 mg/kg マウス LD50 = 4,960 mg/kg
------	---

- に基づき、区分5とした（国連GHS分類）。  
 ただし、分類JISでは区分外である。  
 飲み込むと有害のおそれ（経口）（区分5）  
 経皮 ウサギ LD50 = 10g/kg から、区分外とした。  
 吸入（粉じん） データがないため分類できない。
- 皮膚腐食性・刺激性 : ウサギ 皮膚 500mg/24H Mild  
 ウサギに対して軽度の刺激があるため、  
 区分3とした（国連GHS分類）。  
 ただし、分類JISでは区分外である。  
 軽度の皮膚刺激（区分3）
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 :  
 ウサギ 眼 10mg/24H Mild  
 に基づき、区分2 Aとした。  
 強い眼刺激（区分2A）
- 呼吸器感作性 : データがないため分類できない。  
 皮膚感作性 : データがないため分類できない。  
 生殖細胞変異原性 : データがないため分類できない。  
 特定標的臓器・全身毒性  
 （単回ばく露） : データがないため分類できない。  
 特定標的臓器・全身毒性  
 （反復ばく露） : データがないため分類できない。  
 吸引性呼吸器有害性 : データがないので分類できない。

## 12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : 甲殻類(オオミジンコ) EC50 > 1000mg/L/48H  
 に基づき、区分外とした。
- 水生環境慢性有害性 : 水生環境、生体内に幅広く存在するイオン成分であり、また、  
 急性毒性は低く、難水溶性でない（水溶解度 = 33.5%、25℃）こと  
 から、区分外とした。
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない  
 ため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた  
 産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付  
 して廃棄物処理を委託する。  
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知  
 の上処理を委託する。  
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の  
 処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま  
 埋め立てたり投棄することは避ける。  
 （参考）(1)希釈法  
 廃棄量が少量の場合は、水に溶かし約0.1%液を調製する。その後、  
 この液の100倍量以上の水で希釈して排水処分する。  
 排水に際し、水質汚濁防止法の排水基準に順守すること。  
 (2)活性汚泥法
- 汚染容器及び包装 : 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。  
 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って  
 適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に  
 処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

- 国内規制（適用法令）  
 陸上規制 : 特段の規制なし（非危険物）  
 海上規制 : 特段の規制なし（非危険物）  
 航空規制 : 特段の規制なし（非危険物）  
 国連番号 : 非該当  
 国連分類 : 非該当  
 品名 : 非該当  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのない  
 ように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 非該当  
 毒物及び劇物取締法 : 非該当

